



京都音楽家クラブ創立50周年

藤堂音楽賞25周年

会員による記念演奏会（Ⅱ）

2006年

11月11日（土）6時30分開演

京都コンサートホール（大ホール）

主催 京都音楽家クラブ 共催（財）京都市音楽芸術文化振興財団

後援 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会

協力（株）JEUGIA、（株）河合楽器製作所、（株）ブライトンホテル、（株）旭堂楽器店、（株）ふたば楽器店

ごあいさつ

本日は、京都音楽家クラブ創立50周年、藤堂音楽賞25周年、会員による記念演奏会（Ⅱ）を開催いたしましたところ、ご来聴頂きまして、有難うございます。

京都音楽家クラブは、日本の民主主義への転換の時代であった50年前、京都在住の音楽家・音楽関係者の、楽しく自由に語り合える団体を結びたいとの要望により「音楽芸術家および、音楽関係者の親睦をはかり、その利益をまもり、併せて緊密な連絡と、協力とにより、京都音楽文化の振興に寄与することを目的とする」との規約により昭和31年1月3日に創立されました。

- 具体的な活動は、音楽の創作活動・演奏活動の促進・新人の育成・会員自主公演の後援・演奏の紹介・記念演奏会の開催等。
- 内外音楽家・文化人との交流・年8回。
- 毎月会報の発行 現在580号。等です。

会員数は発足当時は116名でしたが、現在は京都音楽家クラブの趣旨に賛同し、共に活動する会員は創立時の4倍をこえています。

また、京都音楽家クラブ創立25周年目に初代音楽家クラブ会長であり、藤堂製作所会長藤堂顕一郎氏が、より一層京都の音楽文化向上に役立ちたいと云う願いをもたれ、資金を提供されて、藤堂音楽賞を設立されました。この賞は中央三井信託銀行を受託者とし、京都府教育委員会認可のもと、公益信託藤堂顕一郎音楽褒賞基金として、今回、記念演奏会出演者を含め、多数の受賞者を輩出しております。受賞された方々は、それぞれの分野で活躍されておられます。

私達は、この記念すべき年を更なる飛躍の契機として、より一層充実発展し、京都の音楽文化振興に寄与すべく、努力いたしたいと思えます。皆様のご支援、ご高評が頂けますと幸いです。

なお、この公演につきまして、（財）京都市音楽芸術文化振興財団の共催・京都府、京都市、京都府教育委員会・京都市教育委員会の後援、京都音楽家クラブ特別会員、藤堂稔之氏の御支援、京都音楽家クラブ賛助会員等の、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

京都音楽家クラブ創立50周年
藤堂音楽賞25周年記念演奏会実行委員会
委員長 **高橋 恒治**



実行委員会

委員長 高橋 恒治	有賀のゆり	浮村 孝子	尾形 光雄
	小久見豊子	田中 美鈴	中谷 幸治
	船岡 陽子	萬 英子	

PROGRAM

O.メシアン：「主の降誕」より “神はわれらのうちに” パイプオルガン 高橋 聖子

廣瀬 量平：ブルートレイン マリーンシティ
指揮 福永 吉宏 フルーツオーケストラ (会員フルート奏者有志)

A.ブルックナー：キリストはおのれを低くして・ミサ ホ短調から CREDO

谷川俊太郎作詞：混声合唱曲集「木とともに人とともに」より
三善 晃 作曲 ピアノのための無窮連禱による一生きる

秋元 康 作詞：川の流れるように 指揮 ※浅井敬壹
見岳 章 作曲 合唱 ※合唱団京都エコー
藤林由里 編曲 ピアノ 藤澤 篤子(客演)

(休憩)

F.リスト：ピアノ協奏曲 変ホ長調 第1番 指揮 阪 哲朗(客演)
ピアノ 岡部佐恵子
管弦楽 ※京都フィルハーモニー
室内合奏団

J.シュトラウスⅡ：喜歌劇「こうもり」より 指揮 阪 哲朗
序曲 第2幕抜粋 第3幕フィナーレ 合唱 ※京都混声合唱団
演奏会形式 管弦楽 京都フィルハーモニー
室内合奏団
独唱者 会員声楽家

※藤堂音楽賞受賞者・団体

PROGRAM NOTE & PROFILE

メシアン「主の降誕」より「神はわれらのうちに」

この「主の降誕」は、ベツレヘムでの主の誕生の諸場面を「オルガンのための9曲の瞑想」と題して、メシアンが27才の時に作曲したものです。彼は各曲の序文に聖書の言葉をそれぞれ引用しつつ、神学的に音楽を表現しています。中でもこの第9曲「神はわれらのうちに」は、若きメシアンの彼独特の技法や、19世紀のフランクから新たに始まったフランスオルガン音楽の要素を多分に駆使した、メシアンのオルガン曲の中でも代表的な作品と言えます。



パイプオルガン 高橋 聖子

同志社女子大学音楽学科卒業後、ドイツのシュトゥットガルト国立音楽大学、フランスのルエイユ・マルメゾン音楽院に留学。92年同音楽院にてExcellence賞、93年Virtuosité賞を受賞。その後バリー市立高等音楽院に学び、95年第1回バリー市国際オルガンコンクールにて、オリヴィエ・メシアン最優秀賞を受賞する。鷺淵紹子、ヴェルナー・ヤコブ、マリー＝クレール・アランに師事。現在同志社女子大学嘱託講師。2000年より隔年で京都市立芸術大学において「鍵盤楽器総論」の講義を担当する。

廣瀬量平 作曲：ブルートレイン BLUE TRAIN(1979)

この曲は広瀬のフルートアンサンブル最初の作品であり、今や最も愛好され国内は勿論世界各国でも度々演奏されている。最近ではベルリンフィルのメンバーによるCDも出ている。フルートオーケストラが広く世に知られるきっかけとなった名曲で、しかもこの演奏形態を世に定着させることに貢献した曲ともいわれる。

BLUE TRAINとは夜行列車の別名であり、2本のピッコロによる可愛い汽笛によって開始され、汽車の進行リズムが刻まれ、ノスタルジックな第二のテーマへ至る。

この曲はフルート合奏の柔らかなサウンドを活かした曲で、ソナタ形式に則って書かれているが、和音相互の連結は既成の調性音楽とは異なっている。

1979年東京フルートアンサンブルの委嘱によって作曲され、初演当夜から2度繰り返し演奏されるという幸運な誕生をし、後にはフルートの巨匠マンセル・モイーズのロンドンにおける追悼コンサートにはニコレランバル等世界の名手たちによって演奏された。

(中村典子 記)

：フルートオーケストラのための「マリンシティ」(1980)

「マリンシティ」は日本フルート協会の委嘱で第2回日本フルートフェスティバルのために作曲され、1980年9月、百名近いプロのフルーティストの大集団によって初演された。

前作の「ブルートレイン」とは対照的に、全曲が神秘的な和音連結に彩られている。「マリンシティ」とは、空想に基づく海底都市であろうか。

(中村典子 記)



廣瀬量平

[略歴]

北海道大学、東京藝術大学卒業。池内友次郎に師事。芸術祭優秀賞(69、72、73、76、78)、尾高賞(77)、文化庁芸術作品賞(89)、藤堂音楽賞(90)、京都府文化功労賞(90)など。77年より京都市立芸術大学教授。92年より96年まで京都市立芸術大学音楽学部長。84年より86年まで日本現代音楽協会委員長。94年には京都市文化功労者となる。96年には、京都で後進を指導したことと、日本伝統音楽への貢献により、京都新聞文化賞を受賞した。97年には、作曲家として多くの作品を発表し、音楽界に貢献した功績により、紫綬褒章を授与された。

そのほか国立音楽大学、東京藝術大学、同志社女子大学などの講師、2000年京都市立芸術大学に日本伝統音楽研究センターを設立。初代所長を務め、現在京都コンサートホール館長。

[主要作品など]

作品は管弦楽曲、室内楽、器楽曲、合唱曲、邦楽曲、古楽器におよぶ。ヴァイオリン協奏曲、オーケストラのためのクリマⅠ・Ⅱ、チェロ協奏曲、迦陵頻伽(カラヴィンカ)、尺八協奏曲、弦楽合奏曲「朝のセレナーデ」が日本各地や海外のオーケストラで上演、その他合唱組曲「海の詩」「海鳥の詩」など。特に子供の歌はポロニャのコンクールで銀賞。その他NHKみんなのうたなど多数。'00年1月東京都交響楽団第502回定期演奏会<廣瀬量平作品集>。'01年6月新日鉄文化財団主催<廣瀬量平の邦楽作品>東京紀尾井ホール。CD等多数。

指揮 福永 吉宏

1979年 大阪芸術大学演奏学科卒業。

1980年 ドイツ、カールスルーエ音楽大学入学。1999年 フルトリサイタル（バッハフルトソナタ全曲。チェンバロ小林道夫）において、大阪文化祭奨励賞受賞。1981年京都バッハソリストを創立し、バッハカンタータ200曲全曲連続コンサートを1987年にスタートさせ2005年に完結させる。

日本フルト協会理事、大阪芸術大学講師。京都バッハソリスト主宰、指揮。これまでに故山田忠男、小久見豊子、荒井博光、西田直孝の諸氏に師事。

フルトオーケストラ（会員フルト奏者有志）

今井しょうこ	岡田 小雪	小久見佳代	※小久見豊子
掛村 岳志	小林 久美	小林 千晶	※清水 信貴
高瀬 佳子	対馬 潤（客演）	津田佐代子	中野 幸代
初田 茂子	藤井杏誉子	村田 慶子	山田 正子

A. ブルックナー：キリストはおのれを低くして・ミサ ホ短調から CREDO

谷川俊太郎作詞：混声合唱曲集「木とともに人とともに」より

三善 晃 作曲 ピアノのための無窮連祷による一生きる

秋元 康 作詞：川の流れるように

見岳 章 作曲

藤林由里 編曲

合唱コンクール全国大会の実績を認めて頂いた藤堂音楽賞。そのコンクールで京都エコーの歌うブルックナーは高く評価されました。「キリストはおのれを低くして」そしてミサ2番の「クレド」は、それぞれコンクール大賞を受賞した、エコーにとって大切な祈りの曲です。「生きる」は、谷川俊太郎の詩句と三善晃の音が深く心に刻まれる名曲。生命が粗末に扱われている今だからこそ、強いメッセージとして歌いたいです。浅井の音楽に多大な影響を与えた美空ひばり。ひばり演歌の集大成である「川の流れるように」を、人生と重ね合わせて歌います。



指揮 浅井 敬壹

ピアノ 藤澤 篤子(客演)

合唱 合唱団京都エコー

1962年、現団長・常任指揮者の浅井敬壹が、「京都の地に世界一の合唱団を」を目標に13名の仲間とともに創団。現在は会社員・学生・主婦など約100名を数える。1970年にはコンクール全国大会への初出場を果たし、以来通算28回出場。1980年から1999年までの20年連続を含む22回の金賞を受賞している。20年連続金賞を機にコンクール出場を一旦休止し、より身近に合唱の楽しさを共感できる演奏活動に力を入れ、京都はもとより全国各地での演奏会に取り組んでいる。

F. リスト：ピアノ協奏曲 変ホ長調 第1番

この作品は、リストがピアニストとして多忙をきわめた若い頃から案を練り、1849年に完成されました。リスト自身のピアノとベルリオーズの指揮で初演され、その従来の形とは違う形式構成、また当時軽音楽として使われていたトライアングルを協奏曲に用いるという斬新なアイデアが批判されたため、しばらく演奏されなくなりました。しかし100年が過ぎ去った今日では、親しみやすい華やかな作品として、多くの人から愛されています。

作品は4部からなり、その間に切れ目なく演奏されます。第1部のダイナミックなテーマと第2部の美しいカンタービレの対比、そしてトライアングルが印象的な第3部に、様々な音楽素材をまとめて聴かせる第4部、主題が相互に関連を持ち、ピアニスティックな表現を盛り込んだリストらしい傑作の一つです。



指揮 阪 哲朗（客演）

京都市出身。京都市立芸術大学作曲専修にて廣瀬量平氏らに師事。卒業後、ウィーン国立音楽大学指揮科にてK・エステルライヒャー、L・ハーガー、湯浅勇治の各氏に師事。

1992/93年のシーズンよりスイス（ベルン州）ビール市立歌劇場専属指揮者、1997/98年ブランデンブルグ歌劇場専属第一指揮者、1998/99年のシーズンからはベルリンのコーミッシェ・オーバー専属指揮者を歴任、2005/06年のシーズンより、アイゼナハ歌劇場（ドイツ・チューリンゲン州）の音楽総監督を務めるなど、国内外で活躍。

「第44回ブザンソン国際指揮者コンクール」優勝。そのほか受賞歴も豊富。



ピアノ 岡部佐恵子

京都市立堀川高等学校（現京都市立音楽高等学校）を経て、東京藝術大学卒業。同大学院修了。国際ロータリー財団奨学生として国立ミュンヘン音楽大学へ留学、同マスタークラス修了。第18回又エバアクロポリス国際ピアノコンクール（マドリッド）第1位。京都（京都JOCS、京の俊英演奏家シリーズ）、大阪（日本演奏連盟主催）、ドイツ、スペインにてリサイタルを開催する他、オーケストラとの共演、室内楽等積極的な活動を行う。

島崎清、福井尚子、高良芳枝、多美智子、松田康子、クラウス・シルデ、ミハエル・シェーファーの各氏に師事。伴奏法をヘルムート・ドイチュ氏に師事。現在、大阪音楽大学、同志社女子大学にて後進の指導にあたる。



管弦楽 京都フィルハーモニー室内合奏団

1972年結成。創立34年を迎える。一人一人がソリストの個性派揃いの合奏団。「クオリティは高く、ステージは楽しく」というポリシーを持った京フィルの演奏は、クラシック音楽に馴染みの薄い人々をも引き込んでいる。内外の演奏家との共演を行う一方、異分野の方々との共演も多く好評を博している。2000年に特定非営利活動法人（NPO）となる。

平成2年度 藤堂音楽賞受賞。

平成14年度 京都新聞大賞文化学術賞受賞。

J.シュトラウスⅡ：喜歌劇「こうもり」より

序曲 第2幕抜粋 第3幕フィナーレ 演奏会形式

ウィーン・ワルツの華とされる「美しく青きドナウ」など約170曲のワルツにより「ワルツ王」として親しまれるヨハン・シュトラウスが喜歌劇の作曲に目を向けたのは50歳を目前にした頃でした。それは当時、自作の喜歌劇「天国と地獄」の上演のためウィーンを訪れたオッフェンバックの人と作品に接した彼が、その洗練された作風に魅せられたからだと言われています。こうしてシュトラウスは16曲の喜歌劇を作曲しましたが、第3作「こうもり」は後年の「ジプシー男爵」と共に彼の代表作です。19世紀を舞台とする「こうもり」には、洗練されたウィーン・ワルツの調べなど飛び切りの音楽が充ち溢れ、その響きは時代を超えて今も聴く者に「共に人生を謳歌しよう！」と上機嫌で呼びかけます。歌劇に比して低い評価を受けがちな喜歌劇ですが、現在もこの作品が世界の歌劇場の重要な上演曲目であり続ける事実、この作品の芸術性の高さの証しであると言えます。

指揮 阪 哲朗

合唱 京都混声合唱団

1926年に京都在住の同声会（東京音楽学校・現東京芸術大学音楽学部同窓会）メンバーを中心に結成された。1975年の創立50周年記念演奏会以来、京都市交響楽団伴奏による宗教大曲の他、邦人オリジナル曲など幅広い演奏活動を行なっている。1991年、京都市立芸術大学の蔵田裕行教授（現同名誉教授）を常任指揮者に迎え、創立70周年にハイドン「四季」を、創立80周年はバッハ「口短調ミサ」を上演した。1982年 第一回藤堂頭一郎音楽褒賞（団体）、1996年 京都新聞大賞（社会賞）等を受賞している。



管弦楽 京都フィルハーモニー室内合奏団

独唱者 会員声楽家

アイゼンシュタイン

※尾形 光雄

ロザリンデ

長谷川 泉

アデーレ

※日紫喜恵美

ファルケ博士

※片桐 直樹

オルロフスキー公爵

福原寿美枝

フランク

山中 雅博

イダ

日下部祐子

アルフレッド

岩室 史英

※藤堂音楽賞受賞者